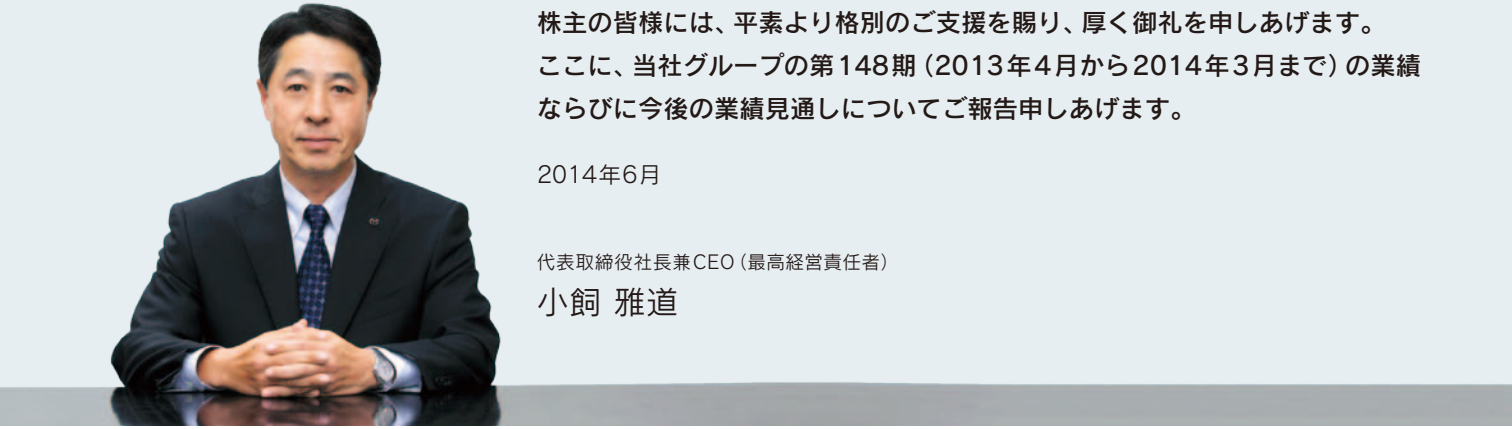
株主のみなさまへ

第148期 株主通信

平成25年4月1日～平成26年3月31日

マツダ株式会社

株主のみなさまへ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申しあげます。ここに、当社グループの第148期（2013年4月から2014年3月まで）の業績ならびに今後の業績見通しについてご報告申しあげます。

2014年6月

代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）
小飼 雅道

当期の概況

当期は、2016年3月期に向けた「構造改革プラン」を推進するなかで、新商品の導入や生産体制の再構築において、着実な成果をあげることができました。

新商品では、グローバルで高い評価をいただいているSKYACTIV技術と魂動デザインを採用したモデルの第3弾として、新型「マツダ アクセラ」（海外名：Mazda3）を導入しました。新型「アクセラ」では、新開発の「SKYACTIV-G 1.5」を含むガソリンエンジンと、ディーゼルエンジンに加え、国内ではセダンモデルにハイブリッドシステムを導入するなど、お客様の多様化するニーズにも「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」でお応えしています。グローバルで導入は順調で、国内市場では計画を大幅に上回る受注を獲得、欧米など海外市場でも高い評価をいただき、「2014ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」、「2014ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」ともにトップ3に選出されました。「マツダ CX-5」と「マツダ アテンザ」（海外名：Mazda6）も好調を維持しています。「CX-5」は、国内のSUV販売台数で2年連続No.1を獲得、「アテンザ」は、「2014年次RJCカーオブザイヤー」、および「2013–2014日本カー・オブ・ザ・イヤーエモーショナル部門賞」を受賞しました。「走る歓びを究めたクルマをつくりたい」というマツダの想いに、多くの人に共感していただき、大変うれしく受け止めております。今年3月開催の第84回ジュネーブモーターショーではマツダの次世代コンパクトカーのコンセプトモデル「マツダ 跳（HAZUMI）」を世界初公開しました。今後のSKYACTIV搭載車のラインアップ拡充をご期待ください。

販売面では、SKYACTIV搭載車の高い商品力を背景にした「売り方革新」の成果が現れつつあります。正価販売の推進により、インセンティブ（販売奨励金）を抑制するなかで、台数成長を図っています。また、これら取り組みにより、高い残存価格と適正な在庫レベルの維持を実現しています。

生産面では、メキシコ新工場での北米向け新型「Mazda3」の生産を、予定通り1月より開始しました。今後、中南米や欧州向けの車両を順次生産します。また、メキシ

コでのエンジン機械加工工場の建設やタイでの新トランスミッション工場の建設も順調です。国内でもSKYACTIVエンジンやトランスミッションの生産能力増強を計画通り進めています。

以上の取り組みなどにより、当期の業績として、グローバル販売台数は「CX-5」、「アテンザ」および新型「アクセラ」が販売を牽引し、前期比7.8%増の133万1千台となりました。売上高は、SKYACTIV搭載車の販売拡大により2兆6,922億円(前期比4,870億円増加)、営業利益は、台数・車種構成の改善やコスト改善の推進、為替変動の影響などにより1,821億円(同1,282億円増加)、当期純利益は1,357億円(同1,014億円増加)となりました。

配当については、当期の業績および経営環境ならびに財務状況などを勘案して決定することを方針としています。当期は4期ぶりに復配し、1株当たり1円の配当とさせていただきました。今後、安定的な配当の実現と着実な向上に努めてまいります。

次期見通し

米国や欧州で引き続き緩やかな景気回復が見込まれる一方、国内での消費税増税の影響、新興国経済の先行きの不透明さなどが懸念されます。このような状況の中、当社は収益構造の改善とグローバル生産体制再構築への取り組みなど「構造改革プラン」をさらに加速します。新型「アクセラ」の通年での販売貢献に加え、メキシコ工場の本格稼働により供給体制が整うことからグローバルで台数成長を目指します。さらに、SKYACTIV搭載車を新たに2車種導入しコアモデルのラインアップを拡充するとともに、高い商品力を背景とした販売奨励金抑制、正価販売を継続していきます。また、商品およびマツダブランドの広告宣伝活動の強化や販売ネットワークの強化もさらに推し進めます。

次期のグローバル販売台数は、前期比6.7%増の142万台、売上高は2兆9,000億円(前期比2,078億円増加)、営業利益は2,100億円(同279億円増加)、当期純利益は1,600億円(同243億円増加)の見通しです。

期末配当は1株当たり10円*を計画しています。当社は生産、販売、サービスなどの活動を通じて、変化し続ける社会に対する責任を果たし、全てのステークホルダーの皆様から信頼される企業となれるよう引き続き努力してまいります。

* 8月1日実施予定の株式併合後の金額

連結業績の推移

(3月期)

	2013年		**2014年**		2015年	
	実績	前期比	実績	前期比	見通し	前期比
グローバル販売台数(千台)	1,235	△12	**1,331**	**+96**	1,420	+89
売上高(億円)	22,053	+1,722	**26,922**	**+4,870**	29,000	+2,078
営業利益(億円)	539	+927	**1,821**	**+1,282**	2,100	+279
経常利益(億円)	331	+699	**1,407**	**+1,076**	2,100	+693
当期純利益(億円)	343	+1,420	**1,357**	**+1,014**	1,600	+243

構造改革プランのアップデート

当社は2012年2月に「構造改革プラン」を発表し、SKYACTIVを梃子とした構造改革を強力に推進してまいりました。この度、市場動向および販売環境や為替の円高修正など当社を取り巻く事業環境の変化を踏まえ、2016年3月期の経営指標を見直しました。グローバル販売台数は、152万台の計画です。営業利益は、1,500億円から2,300億円に上方修正しました（為替前提は、USドル100円、ユーロ135円）。営業利益率は、7%以上の見通しです。着実な台数成長と安定的な収益構造の実現を目指し、経営基盤の強化を進めてまいります。

「構造改革プラン」の4つの施策は継続強化していきます。SKYACTIV搭載車両の導入も順調で、2016年3月期のSKYACTIV搭載比率は当初計画の80%を上回る85%以上となる見通しです。グローバルでの生産体制の再構築や新商品の導入など将来に向けた成長投資を継続しつつ、持続的な成長を実現するためには、この「構造改革プラン」をきっちりとやり切ることが重要と考えております。さらなる業績向上に向けて、今後もグループ一丸となって、手を緩めることなく尽力してまいります。

構造改革プランの4つの施策と今後の取り組み

SKYACTIVによる ビジネス革新	・正価販売を継続、フリート販売を抑制しつつ台数成長を実現 ・SKYACTIV商品のラインアップ拡充 ・競合力維持・強化に向けたSKYACTIV搭載車両の商品改良を実施 ・広告宣伝活動を強化、ブランド戦略を加速
モノ造り革新による さらなるコスト改善の加速	・新型「アクセラ」以降の新商品においても品質の維持・向上とコスト改善を推進 ・開発／設備投資の効率化を強化 ・グローバル最適調達を推進
新興国事業強化と グローバル生産体制の再構築	・メキシコ工場の本格稼働および能力増強を実施 ・タイ新オートマチックトランスミッション工場の計画通りの立ち上げ ・ロシア、マレーシアにおける現地生産も拡大
グローバルアライアンスの 推進	・商品／技術／地域の補完を目指すアライアンスを引き続き推進

「ブランド価値」に焦点を当てた経営を推進

現在、マツダでは全社一丸となって「ブランド価値経営」を推進しています。マツダは、「走る歓び」を感じる「マツダらしい魅力ある商品とサービス」の提供を通じて、お客様の満足を最大化するブランドでありたいと思います。SKYACTIV搭載車など魅力ある商品ラインアップを拡充し、お客様に商品価値を評価いただくことで正価販売を実現し、残価も維持向上を図るなど、「ブランド価値」に焦点を当てた経営に取り組んでいます。

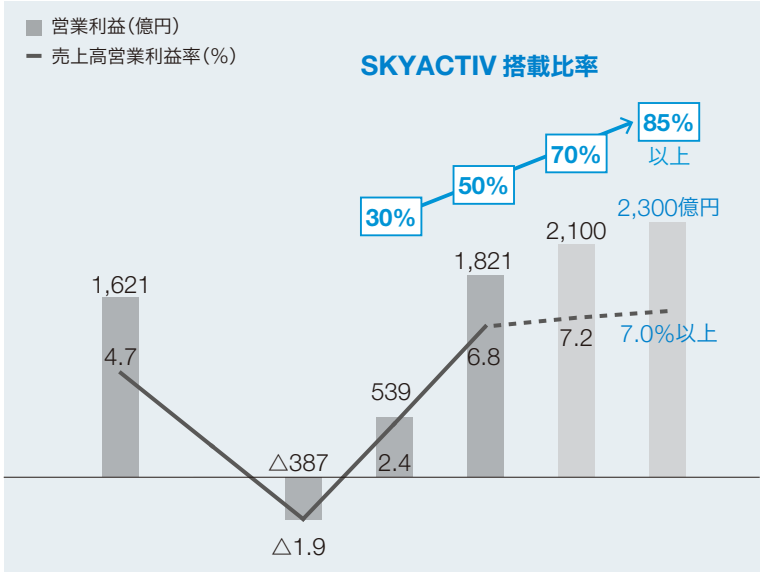
マツダは品質の維持・向上に加えて、「商品」「販売・サービス」「コミュニケーション」「人」、全てのお客様との接点で期待を超える価値を、カーライフを通じて提供し続けることで、「信頼され、選ばれ続ける」ブランドを目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）

小飼雅道

利益成長イメージ



（3月期）	2008	2012	2013	2014	2015（見通し）	2016（見通し）
販売台数（千台）	1,363	1,247	1,235	1,331	1,420	**1,520**
US ドル	114	79	83	100	100	100
ユーロ	162	109	107	134	135	135

マツダブランド価値経営の推進

マツダブランド価値の提供

『走る歓び』を感じる
マツダらしい商品／サービス
（走り／デザイン／
環境・安全性能／カスタマーケア）
の提供を通じてお客様満足を最大化

- SKYACTIVモデルの拡充
- 正価販売と台数成長を両立
- 商品／ブランド宣伝強化

- 将来への成長投資の継続
- 安定的な収益構造の実現
- 株主還元の着実な向上

SKYACTIVによるビジネス革新

SKYACTIV技術は市場への導入以来、各方面から大きな反響と高い評価を獲得し、ブランド価値の向上に寄与してきました。今後も、商品力・ブランド・デザインと、高い収益構造を両立させ、技術面だけでなく、マツダのビジネスそのものの構造改革を牽引していきます。

SKYACTIV技術搭載比率 30%

2012年2月～

STEP 1 バッテリーマネジメント技術
アイドリングストップ機構「i-stop」

2012年11月～

安全性能でも高い評価

SKYACTIV搭載車は安全性能でも高い評価を受けています。新世代の軽量・高剛性「SKYACTIV-BODY」を採用した「アテンザ」は、日米欧の安全アセスメントにおいて、世界最高レベルの評価を獲得しました。

STEP 2 減速エネルギー回生技術
減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」

ビルディングブロック戦略

2020年においてもグローバル市場における自動車の主要なエネルギーは石油資源であり、動力技術は内燃機関が主流だと予測されています。そこでマツダは、エンジンの熱効率改善や車両の軽量化などの「ベース技術」を徹底的に改良した上で、減速エネルギー回生システムやハイブリッドシステムなどの電気デバイス技術を段階的に組み合わせていく「ビルディングブロック戦略」を推進しています。

STEP 3	モーター駆動技術	ハイブリッドシステム「SKYACTIV-HYBRID」
STEP 2	減速エネルギー回生技術	減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」
STEP 1	バッテリーマネジメント技術	アイドリングストップ機構「i-stop」
	ベース技術	パワートレイン・軽量化など

計画 70%

計画 85% 以上

50%

2014年3月

2013年9月～

Mazda アクセラ

TOP THREE IN THE WORLD 2014 WORLD CAR OF THE YEAR

発表日：2014年3月4日　主催：World Car Awards

TOP THREE IN THE WORLD 2014 WORLD CAR DESIGN OF THE YEAR

発表日：2014年3月4日　主催：World Car Awards

新型「アクセラ」からハイブリッドシステムを導入

マツダが常に追求し続けている「走る歓び」。もちろん、それはハイブリッド車でも変わることはありません。アクセラハイブリッドは「マツダのDNAを持つハイブリッド」をコンセプトとし、新型「アクセラ」ならではの感動をそのままに、JC08モード30.8km/Lの低燃費を実現しました。

グローバルで高い評価を獲得

新型「アクセラ」は、日本車として唯一「2014ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」および「2014ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」の最終候補3台に選出されました。

STEP 3　**モーター駆動技術**
ハイブリッドシステム「SKYACTIV-HYBRID」

次世代コンパクトカー「マツダ 跳」を世界初公開

2014年3月の「ジュネーブモーターショー」において、次世代コンパクトカーのコンセプトモデル「マツダ 跳(HAZUMI)」を世界初公開しました。「マツダ 跳」は、マツダのクルマづくりの柱となるSKYACTIV技術、デザインテーマ「魂動(こどう)」、安全思想「マツダ プロアクティブ セーフティ」、新世代カーコネクティビティシステム「マツダ コネクト」に基づき、これらを妥協することなく反映させたコンセプトモデルで、次世代コンパクトカーを示唆しています。

商品力強化と売り方革新

マツダは、2016年3月期までにSKYACTIV搭載車8車種を導入する計画としており、これまでに導入した3車種に続き、2015年3月期には、新型「マツダ デミオ」(海外名：Mazda2)および新型車の2車種を導入し、コアモデルのラインアップ拡充を図ります。SKYACTIV搭載車の比率は、新型「アクセラ」のグローバル導入により大きく向上し、当期は50%、2015年3月期には新型「デミオ」などの導入により、70%まで上昇し、2016年3月期には当初計画の80%を上回り、85%以上となる見通しです。

SKYACTIV商品の高い商品力を背景に、引き続き販売奨励金を抑制し、正価販売を推進していくとともに、さらなる台数成長とブランド強化を目指します。

新興国事業強化と グローバル生産体制の再構築

マツダは国内生産体制を維持しつつ、為替抵抗力の高い生産体制の構築を加速しています。SKYACTIV搭載車両のグローバル生産体制の整備は着実に進捗しており、メキシコ新工場における新型「Mazda3」の生産開始に加え、タイでは新トランスミッション工場の建設が順調に進んでいます。

2014年

1月

メキシコ工場で量産を開始

2014年1月7日、住友商事株式会社との合弁事業としてメキシコに新設した工場「Mazda de Mexico Vehicle Operation（MMVO）」で量産を開始しました。量産モデル第1号車は、SKYACTIV技術を搭載した「Mazda3」のセダンです。当初の年間生産能力は14万台ですが、今後は新型「Mazda2」などへも生産車種を拡大し、2016年3月期までに23万台*に引き上げる計画です。メキシコ国内のほか、米州、欧州向け供給拠点として強化していきます。

また、同工場で生産する「Mazda2」と「Mazda3」に搭載するSKYACTIV技術のエンジンを生産するため、2014年10月にはエンジン機械加工工場の稼働を予定しています。

* トヨタブランド車の台数5万台を含む

MMVO工場と現地従業員

3月

オートアライアンス（タイランド）社の工場にて新型「Mazda3」の生産を開始。タイでの新トランスミッション工場の建設も順調

4月

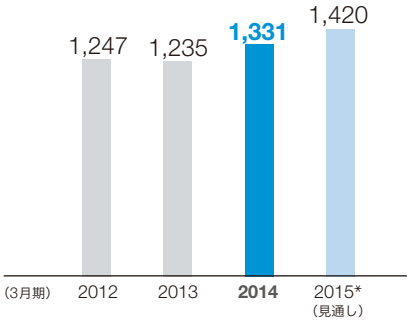
中国で新型「Mazda3」、新型「Mazda6」の生産を開始

5月

マレーシアでマツダ車専用の車両組立工場が完成、「CX-5」の量産を開始

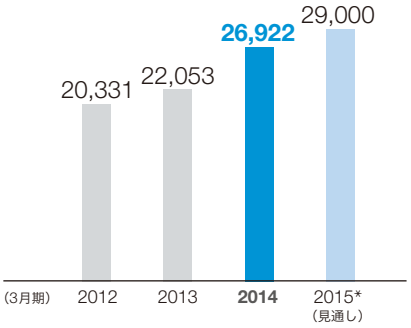
連結業績ハイライト

グローバル販売台数
（千台）



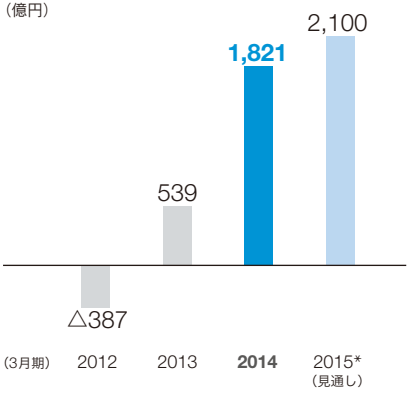
2014年3月期
133万1千台
前期比 **7.8%増**

売上高
（億円）



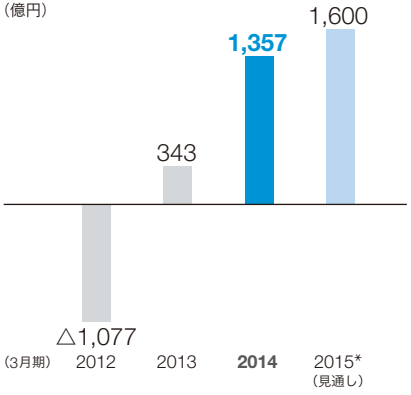
2014年3月期
2兆6,922億円
前期比 **22.1%増**

営業利益（△損失）
（億円）



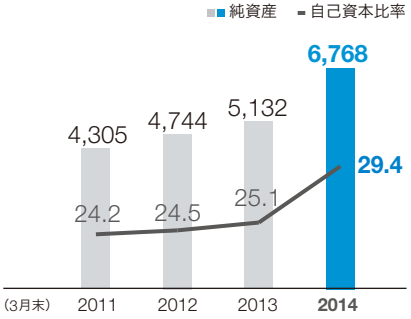
2014年3月期
1,821億円
前期比 **237.7%増**

当期純利益（△損失）
（億円）



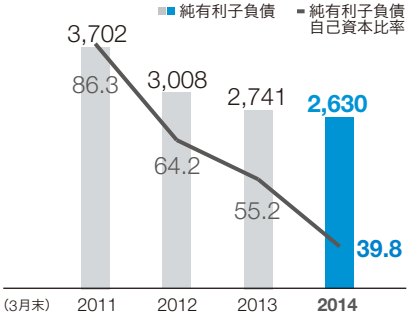
2014年3月期
1,357億円
前期比 **295.6%増**

純資産／自己資本比率
（億円／%）



2014年3月末
自己資本比率 **29.4%**
前期末比 **4.3pt上昇**

純有利子負債／純有利子負債自己資本比率
（億円／%）



2014年3月末
純有利子負債自己資本比率 **39.8%**
前期末比 **15.4pt減少**

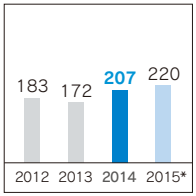
* 2015年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

市場別ハイライト

欧州市場

207 千台

（前期比21%増）



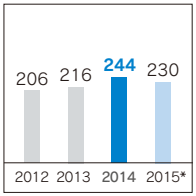
（3月期）

- 当期の販売台数は前期比21%増の20万7千台
- SKYACTIV搭載車が販売を牽引
- 特にドイツ、ロシア、英国など主要国で販売が好調
- 次期の販売台数は6%増の22万台の見通し

日本市場

244 千台

（前期比13%増）



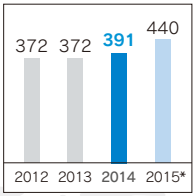
（3月期）

- 当期の販売台数は前期比13%増の24万4千台
- 新たに発売した新型「アクセラ」が計画を大幅に上回る受注を達成するなど、SKYACTIV搭載車が販売を牽引
- 次期の販売台数は6%減の23万台の見通し

北米市場

391 千台

（前期比5%増）



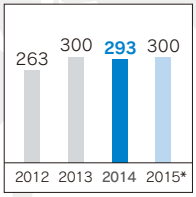
（3月期）

- 当期の販売台数は前期比5%増の39万1千台
- 米国では同4%増の28万4千台。引き続き「CX-5」と「Mazda6」が販売を牽引し、新型「Mazda3」も販売は好調
- メキシコでは過去最高の販売台数を達成
- 次期の販売台数は13%増の44万台の見通し

その他市場

293 千台

（前期比2%減）



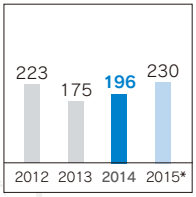
（3月期）

- 当期の販売台数は前期比2%減の29万3千台
- オーストラリアではメーカー別販売で3位となるなど好調を維持
- ASEANでは政情不安の続くタイで販売減も、その他の地域では販売増
- 次期の販売台数は2%増の30万台の見通し

中国市場

196 千台

（前期比12%増）

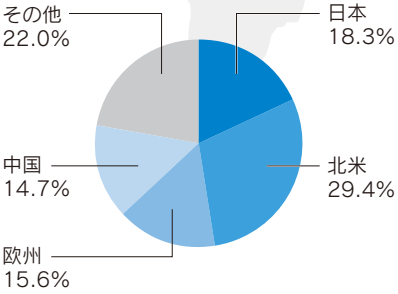


（3月期）

- 当期の販売台数は前期比12%増の19万6千台
- 「Mazda6」および新たに現地生産を開始した「CX-5」が販売を牽引
- 魂動デザイン／SKYACTIVを中心としたマツダブランド広告の継続強化
- 次期の販売台数は17%増の23万台の見通し

グローバル販売台数

133万1千台（前期比8%増）



* 2015年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：億円）

	'14/3末	'13/3末
資産の部		
流動資産	11,325	10,275
固定資産	11,135	9,511
有形固定資産	8,660	7,844
無形固定資産	228	205
投資その他の資産	2,247	1,462
資産合計	22,460	19,786

	'14/3末	'13/3末
負債の部		
流動負債	8,121	7,589
固定負債	7,571	7,064
負債合計	15,692	14,653
純資産の部		
株主資本	5,888	4,531
その他の包括利益累計額	719	432
新株予約権	—	0
少数株主持分	161	169
純資産合計	6,768	5,132
負債純資産合計	22,460	19,786

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

	'13/4 – '14/3	'12/4 – '13/3
売上高	26,922	22,053
売上総利益	6,986	4,760
営業利益	1,821	539
経常利益	1,407	331
税金等調整前当期純利益	974	391
当期純利益	1,357	343

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

	'13/4 – '14/3	'12/4 – '13/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,364	490
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,201	△ 403
財務活動によるキャッシュ・フロー	105	△ 572
現金及び現金同等物に係る換算差額	81	150
現金及び現金同等物の増減額（△減少額）	349	△ 334
現金及び現金同等物の期首残高	4,449	4,773
現金及び現金同等物の期末残高	4,798	4,449

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

主要商品ラインアップ

「Be a driver.」という言葉に込めた、「走る歓びを究めたクルマをつくりたい」というマツダの想いを体現した主要商品ラインアップを紹介します。

Mazda CX-5

2年連続国内SUV販売台数第1位を獲得。国内クリーンディーゼル乗用車の市場拡大を牽引。今までの常識を覆すSUV。

Mazda CX-5
SUV 販売台数 2年連続 No.1
自販連区分SUV国内新車販売台数(自販連調べ)
2012年1月～12月:35,438台、2013年1月～12月:38,520台
＊SUV:自販連区分オフロード4WD(一部2WD含むの国産車

エコカー減税 *1　クリーンディーゼル補助金 *1　SKYACTIV TECHNOLOGY

スタイル	SUV
エンジン	ガソリン:2.0L ／ 2.5L ディーゼル:2.2L
燃費*2 (JC08モード)	ガソリン:14.6 ～16.4 (km/L) ディーゼル:18.0 ～18.6 (km/L)
価格帯*3	213 ～ 328 (万円)

Mazda アテンザ

海外市場での車種名:Mazda6

「2014年次RJCカーオブザイヤー」そして「2013–2014日本カー・オブ・ザ・イヤーエモーショナル部門賞」受賞。息をのむほど美しいスタイリング。

2014 RJC カーオブザイヤー受賞
日本自動車研究者・ジャーナリスト会議主催
受賞対象:マツダ アテンザ　発表日:2013年11月28日

CAR OF THE YEAR JAPAN 2013 2014

2013-2014 日本カー・オブ・ザ・イヤー エモーショナル部門賞受賞
日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催
受賞対象:マツダ アテンザ　発表日:2013年11月28日

＊掲載順は、各賞の発表日順です。

エコカー減税 *1　クリーンディーゼル補助金 *1　SKYACTIV TECHNOLOGY

スタイル	4ドアセダン／ステーションワゴン
エンジン	ガソリン:2.0L ／ 2.5L ディーゼル:2.2L
燃費*2 (JC08モード)	ガソリン:16.0 ～17.4 (km/L) ディーゼル:19.6 ～22.4 (km/L)
価格帯*3	259 ～ 358 (万円)

Mazda アクセラ

海外市場での車種名:Mazda3

日本メーカーで初めて、1つの車種に「ガソリンエンジン」「ディーゼルエンジン」「ハイブリッドシステム」の3つのパワートレインをラインアップ。

TOP THREE IN THE WORLD 2014 WORLD CAR OF THE YEAR
発表日:2014年3月4日　主催:World Car Awards

TOP THREE IN THE WORLD 2014 WORLD CAR DESIGN OF THE YEAR
発表日:2014年3月4日　主催:World Car Awards

エコカー減税 *1　クリーンディーゼル補助金 *1　SKYACTIV TECHNOLOGY

スタイル	4ドアセダン／5ドアスポーツ
エンジン	ガソリン:1.5L ／ 2.0L ディーゼル:2.2L ハイブリッド
燃費*2 (JC08モード)	ガソリン:17.8 ～19.6 (km/L) ディーゼル:19.6 ～21.4 (km/L) ハイブリッド:30.8 (km/L)
価格帯*3	176 ～ 306 (万円)

*1. 減税額および対象グレードについては販売店にお問い合わせください。
*2. 国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用時等)に応じて燃料消費率は異なります。
*3. 記載の価格はメーカー希望小売価格(消費税8%込。1万円未満は切り捨て)です。別途リサイクル料金が必要となります。

Mazda デミオ

SKYACTIV TECHNOLOGY

エコカー減税

海外市場での車種名：Mazda2

コンパクト	16.6～25.0 (km/L)
1.3L ／ 1.5L	118 ～169 (万円)

Mazda ロードスター

海外市場での車種名：Mazda MX-5

スポーツ	11.2～12.6 (km/L)
2.0L	239 ～302 (万円)

Mazda ベリーサ

コンパクト	15.2～16.4 (km/L)
1.5L	160 ～192 (万円)

Mazda フレア

エコカー減税

軽自動車	24.2 ～30.0 (km/L)
0.66L	115 ～168 (万円)

Mazda プレマシー

SKYACTIV TECHNOLOGY

エコカー減税

海外市場での車種名：Mazda5

ミニバン	10.6～16.2 (km/L)
2.0L	185 ～241 (万円)

Mazda フレア ワゴン

エコカー減税

軽自動車	25.0 ～29.0 (km/L)
0.66L	134 ～184 (万円)

Mazda ビアンテ

SKYACTIV TECHNOLOGY

エコカー減税

海外市場での車種名：Mazda Biante

ミニバン	9.4～14.8 (km/L)
2.0L	234 ～291 (万円)

Mazda フレア クロスオーバー

エコカー減税

軽自動車	25.0 ～29.2 (km/L)
0.66L	132 ～165 (万円)

Mazda MPV

海外市場での車種名：Mazda8

ミニバン	10.0～11.0 (km/L)
2.3L	282 ～358 (万円)

エコカー減税

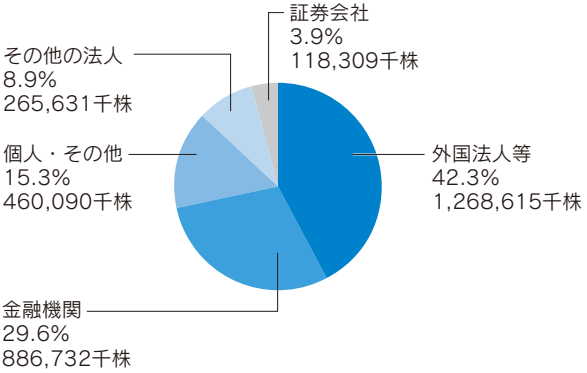
適合グレードは車種により異なります。
詳しくは、販売店にお問い合わせください。

スタイル	燃費*2 (JC08モード)
排気量	価格帯*3

株式の状況（平成26年3月31日現在）

発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	2,999,377,399株
株主数	117,187名 （前期末比8,409名減少）

所有者別状況

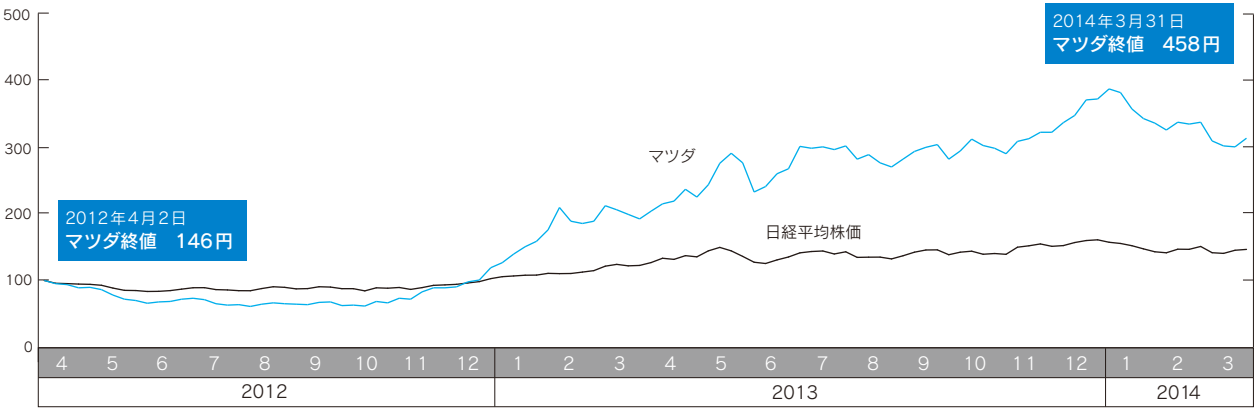


大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	195,951	6.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	154,239	5.2
株式会社三井住友銀行	64,287	2.2
FORD MOTOR COMPANY ACCOUNT FOR MAZDA SECURITIES	62,313	2.1
住友商事株式会社	53,409	1.8
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	49,903	1.7
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	44,396	1.5
三井住友海上火災保険株式会社	40,683	1.4
SAJAP	35,525	1.2
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	31,769	1.1

（注）持株比率は、自己株式10,207,325株を控除して計算しています。

株価の推移（東京証券取引所）（2012年4月2日を100として指数化）



会社概要 （平成26年3月31日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	20,473名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082) 282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番7号 電話(03) 3508-5031
ホームページURL	http://www.mazda.com/jp/

取締役および監査役 （平成26年6月24日現在）

代表取締役会長	金井　誠太
代表取締役	小飼　雅道
代表取締役	丸本　明
取締役	原田　裕司
取締役	中峯　勇二
取締役	稲本　信秀
取締役	黒沢　幸治
取締役	坂井　一郎
取締役	牟田　泰三
監査役(常勤)	栃尾　信義
監査役(常勤)	河村　裕章
監査役	赤岡　功
監査役	平澤　正英
監査役	堀田　隆夫

株主メモ （平成26年3月31日現在）

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
・郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
・電話お問合せ先	0120-782-031
・ホームページURL	http://www.smtb.jp/ personal/agency/index.html
単元株式数	1,000株
証券コード	7261

オフィシャルウェブサイトもご活用ください

「株主・投資家情報」

社長メッセージや決算資料、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.com/jp/investors/

「CSR」

環境保全、社会貢献、安全への取り組み、サステナビリティレポートへのリンクなど、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.com/jp/csr/

Mazda Motor Corporation

zoom-zoom

本誌は植物油インキを使用しています。

表紙掲載車種 新型「マツダ アクセラ」